平成２８年度第１回　平塚市環境審議会の概要

日　時　平成２８年６月６日(月)　１０時００分から１２時００分まで
場　所　市庁舎本館７階　７１０会議室
出席者　上平委員、片山委員、河邊委員、鈴木委員、秋山委員、齋藤委員、野口委員、
　　　　中谷委員、後藤委員、伊藤委員、伊賀委員、室田委員、堀委員、池貝委員
　　　〈事務局〉環境部長、環境部各課長ほか
　　　〈平塚市環境基本計画の改定に係る委託業者〉ランドブレイン㈱倉地氏、湊氏
議　題
（１）　平塚市環境基本計画関連事業の平成２７年度実施状況について
（２）　平塚市環境基本計画の改定について

会議の概要

１　開会

２　委嘱状交付

３　議題

（１）平塚市環境基本計画関連事業の平成２７年度実施状況について

○会長
　議題（１）「平塚市環境基本計画関連事業の平成２７年度実施状況」について事務局から説明を。

◇事務局
　「資料１　進捗状況報告書」により説明。

○会長
　今の事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○会長
　平成２７年度の重点施策の具体的取組内容の実績としては、○が６７個で平成２６年度は６４個、△が５個で平成２６年度は８個、×が３個で平成２６年度は５個、評価なしが４個で、平成２６年度は０個となっており、概ね良い方向に向かっているという認識で良いのか。

◇事務局
　重点施策の具体的な取組の評価としては、概ね良い方向に向かっているという認識ではある。ただし、重点施策の目標の評価は、○が９個で平成２６年度は１０個、△が０個で

平成２６年度は３個、×が４個で平成２６年度は１個、評価なしが１個で平成２６年度は０個となっており、あまり良い方向に向かっていないという認識である。

〇委員
１２～１４ページの「市民活動や企業の取組に対する支援【重点施策】」は、重点施策の目標の評価が×で、具体的取組内容の評価は全て〇となっており、重点施策の目標とその具体的取組の目標の繋がりが良く理解できなかった。同じことが、２５～２８ページの「農業の活性化と農業とのふれあいの推進【重点施策】」にも言える。

◇事務局
平塚市環境基本計画（改訂版）第３期事業計画６、７ページの施策の体系と具体的取組を参照していただくと、例えば、「環境市民の取組や連携を支援します」を実現するために施策の項目「市民活動や企業の取組に対する支援［重点］」があり、主な取組の内容として重点施策の目標と具体的な取組内容が設定されているが、重点施策の目標と具体的な取組は必ずしも一致はしていない。

〇委員
一般市民は重点施策の目標を円滑に進めるために具体的な取組内容を行うと考える人が多いと思うので、次期環境基本計画ではそのことを意識した方が良い。

◇事務局
本来、重点施策の目標と具体的な取組はリンクしているものであり、具体的な取組を進めることにより、重点施策の目標も進んでいくものであるが、実態として具体的な取組と重点施策の目標を上手くリンクさせることは難しい。例えば、重点施策の目標の１つである「環境ファンクラブの会員数」を例に取っても、どの様な具体的な取組を行えば、環境ファンクラブの会員数が増えるのか上手くリンクさせることが難しい。結果的に具体的な取組が全て〇なのに、環境ファンクラブの会員数の増加目標を達成することが出来なかった。重点施策の目標を実現するためにどのような具体的な取組をすればよいのか、次期計画を見据えて考え直す必要がある。

〇会長
２５～２８ページの「農業の活性化と農業とのふれあいの推進【重点施策】」では重点施策の目標の耕作放棄地面積の削減を実現するために、農地の貸し借りを促進したり、市民農園の整備を支援したりすることで耕作放棄地が減少するという考え方で、具体的な取組が置かれているというとらえ方でよいのか。

◇事務局
そういった認識のとおりである。

〇会長
重点施策の具体的な取組が〇だが、重点施策の目標が×になっているということは、重

点施策の目標と重点施策の具体的な取組がうまく関連づけられていなかったのではないのか。

◇事務局
重点施策の目標と重点施策の具体的な取組が上手く繋がっていなかったという面があったと思う。重点施策の具体的取組により、重点施策の目標が達成できるように、次の計画に向けて見直していきたい。

〇委員
重点施策の目標の環境ファンクラブの会員数及び耕作放棄地面積の具体的な目標値は、一度に４年度分設定しているのか、それとも年度毎に前年を踏まえて設定しているのか。計画としては、４年度分を設定していると思う。環境ファンクラブの会員数を毎年２０人ずつ増やすという目標は、２４年度まで実績を考慮して目標設定しているのか、それとも意欲だけで目標設定をしたのか。厳しい目標値を掲げるのは良い事ではあるが、市民としては、時代の流れに即応した環境の現状を知りたいと思う。耕作放棄地についても同じことが言える。

４８ページのごみ減量化・資源化協力店制度の拡充等では、平成２７年度の実績として「新規協力店の申し込みもあったが、商店の閉鎖等により、拡充はできなかった」とあり、評価は△となっているが、参加した商店の数等、現状はどうだったのかという書き方をしてほしい。単純に〇、×、△で評価するだけではなく、次期計画では市民に現状が分かるような計画をつくってほしい。

◇事務局
環境ファンクラブの会員数の目標設定をする際、４年間のスパンの中で、将来的な目標を２００人とした。環境政策課としては、環境に関する取組に対して思いを持っている方に実際に活動していただくため、環境ファンクラブの会員数を毎年２０人ずつ増したいと思っていたが、現実的には目標達成することはできなかった。そのことを踏まえ、大きな目標をかかげるだけではなく、現状を踏まえた中で、計画として求められていることを見極めて、次期計画の目標を立てたいと思う。

〇会長
この計画は、ＰＤＣＡサイクルを採用しているのではないのか。ＰＤＣＡサイクルを採用していれば、毎年見直しがあって、毎年数値が変わる可能性はあると思うが。

◇事務局
環境基本計画は、市の全体計画である総合計画の下位計画として位置付けられている。環境基本計画の個別の施策が総合計画の実施計画に位置付けられると、途中で環境基本計画の目標値を変えることが出来ず、総合計画の進捗管理に合わせる必要がでてくる。

○会長
　平塚市総合計画はＰＤＣＡサイクルを採用していないのか。

◇事務局
　平塚市総合計画もＰＤＣＡサイクルを採用しているが、いろいろな考え方があり、年度毎に目標値を変更するのは現実的に難しい。ファンクラブの会員数は毎年計画通りに２０人ずつ増えていないという状況だったが、総合計画に位置付けられていて、目標値を変更することが出来なかった。

○委員
　１２ページの環境ファンクラブの会員数の中には、環境ファンクラブに加入している団体に所属している人の数も入っているのか。

◇事務局
　１２ページの環境ファンクラブの会員数の中には、環境ファンクラブに加入している団体に所属している人の数は入っていない。環境ファンクラブに加入している団体は、それぞれ１団体を１人として数えており、個人会員１人と同じようにカウントをしている。環境ファンクラブの会員数が１人しか増えていなくても、各団体の会員数はもっと増えているかもしれないので、必ずしも環境活動に参加している方が１人しか増えていないというわけではない。

○委員
　そうなるとかなり厳しいのではないか。環境活動に実際に参加している人はもっと多いはずである。環境ファンクラブの活動発表会等で環境ファンクラブの活動を来場者に紹介しているが、必ずしも環境ファンクラブの会員増加に繋がっているわけではない。毎年２０人ずつ増やすという目標は厳しいのではないか。環境ファンクラブに加入している団体はそれぞれ相応の規模がある団体であり、その内実を市民に理解してもらうことが必要だと思う。

◇事務局
　環境ファンクラブに加入している団体の中でも会員が増加している団体はあると思うが、所属している人数を市で把握している訳ではない。現段階では、環境ファンクラブの会員数の増加を重点施策の目標としているが、今後、市内の環境市民活動団体の活動に関してどのような指標を置くのかを含めて、重点施策の目標を検討しないといけないと思っている。

（２）平塚市環境基本計画の改定について
○会長
　議題（２）「平塚市環境基本計画の改定」について事務局から説明を。

◇事務局、ランドブレイン㈱
「資料２　新環境基本計画の全体構成と作成方針」、「参考資料」により説明。

○会長
今の事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○会長
参考資料の「第４章環境の分野別の取組」については、作成中ということで、具体的な検討ができないということで良いのか。

◇事務局
そのとおりである。

○会長
第１章から３章までについて、ご意見をいただければ。

○委員
７ページの「定量評価、目標達成度（平成２６年度）」の数値が若干ずれている気がする。例えば、「「環境市民」を増やします」（施策の柱）は、９４．６％ではなく、９８．１％になるはずである。数値がずれているのは、何か理由があるのか。

◇事務局
７ページの「定量評価、目標達成度（平成２６年度）」では平成２６年度の実績値を平成２６年度の目標値で割る必要があるが、平成２６年度の実績値を平成２８年度の目標値で割ってしまっているため、数値がずれてしまっている。数字は再度精査する。

○委員
環境ファンクラブの会員数を重点施策の目標にする場合、人だけを指標にするのではなく、人及び団体を指標にしないと混乱するのではないのか。

◇事務局
環境ファンクラブの会員数には個人会員と団体会員が混在しているので、分かりにくい表記となっている。今後、分かり易い表記になるように検討する。

○委員
団体数を２０増やすのはとても難しいと思う。

◇事務局
環境ファンクラブの会員数の目標は、個人会員の増加を想定している数だと思う。最終的に次期計画にどのような指標をおくかも検討課題としたい。

○委員
平塚市環境基本計画を検討する委員会の他に平塚市地球温暖化対策実行計画を検討する委員会があると思うが、双方の委員会で内容の示し合わせを行う機会はあるのか。
全体的に数値が間違っているので、数値を見直してほしい。
２０ページの基本方針の図と２１ページの「第４章環境分野別取組、施策の体系」の並びが合ってないように思える。基本方針の１がこの項目、２がこの項目というまとめ方をした方が良いのではないか。例えば、基本方針が大項目、施策の方向が中項目、施策の集まりが小項目というまとめ方をした方が分かり易いと思う。
平成２８年度の進捗状況を評価する際には、重点施策の目標の数値だけで評価するのではなく、具体的な取組内容を入れて評価した方がよいのではないのか。例えば、重点施策の目標が×でも具体的な取り組みが○であったら、評価を△にするなどを考えた方がよいのではないか。リンクした評価の仕方が必要だと思う。

◇事務局
現行の平塚市地球温暖化対策実行計画の進捗管理は、本審議会で別途している。市域全体の二酸化炭素の排出量の目標を立て、市域全体でどれだけ削減できたかを評価しており、８～９ページでその総括をしている。また、削減するための具体的な施策として、農地の保全、緑を増やす、省エネ機器の導入等の施策があり、多くの施策が環境基本計画の施策と重複している。５～７ページの現行計画の進捗状況で両計画の評価をさせていただき、次期計画に繋げていく構成となっている。
２０ページの基本方針の１～３と２１ページの施策の体系は必ずしも一致していない。今後、各課との調整の中で個別の施策や施策の方向性が変更することもあるため、第４章環境の分野別の取組は、現行の環境基本計画をベースに作成している。第４章や環境基本計画の下に作られる事業計画の構成については、その中の重点施策の考え方を整理した中で、基本方針の考え方を踏まえて作る方向性を考えている。
重点施策の評価と関連する重点施策の具体的な取組の評価については、頂いた意見を踏まえた上で、どのような形で評価としてまとめていくかを今後検討していく。

○会長
重点施策の評価と関連する重点施策の具体的な取組の評価方法については、今後審議会の議題として取り上げ、事務局より素案を貰って検討する機会があるのか。

◇事務局
事務局で案を検討し、審議会に提示したい。

○委員
先ほど２０ページの基本方針と２１ページの施策の体系がリンクしていないということであったが、今後次期環境基本計画を作成する際には基本方針がベースとなり、基本方針を実現することにより望ましい環境像が実現できると思うので、リンクさせないのは問題があると思う。

◇事務局
　第４章自体は変更する前提で作成されており、現状では基本方針とリンクしていない。第４章の具体的施策を検討した中で、審議会の意見等を踏まえて、今後構成を考える予定である。基本方針は重点施策を作る際に盛り込むという考え方もあるので、基本方針の反映方法については現状では検討中である。

〇会長
　次期環境基本計画は、１０年間の計画を立てるということだが、市の全体の目標があって、それに係る環境に関する問題があるという構成にした方がよいのではないのか。市として目指す方向性はないのか。

◇事務局
　上位計画として総合計画があり、市域全体の計画となっている。２ページでも総合計画の位置づけが記載されており、１０ページの平塚市を取り巻く状況についても総合計画の課題分析を踏まえて作成している。また、総合計画の方向を踏まえて、次期環境基本計画自体を作成している。総合計画で目指している平塚の将来像をどのように次期環境基本計画に反映するかについて検討し、原案に盛り込めるものは盛り込んでいきたい。

〇委員
　総合計画は８年間の計画となっており、平成３５年度までの計画となっているが、環境基本計画は１０年間の計画であり、総合計画よりも先の年度を規定するのか。

◇事務局
　総合計画と環境基本計画の策定時期がずれてしまっている。総合計画の最終年度と平塚市環境基本計画の最終年度を合わせるということも考えられるが、環境に関する事項は長いスパンで検討しなければいけないことから、現行計画に合わせて１０年とした。総合計画は市全体の総括的な計画であることから、環境基本計画は環境の１つのジャンルとして総合計画が目指す将来像に向けて施策を展開していく方向性には違いはない。

〇会長
　総合計画に長期の計画はないのか。例えば、人口が減っているから二酸化炭素排出量が減っていくとか、人口減少に伴って産業が衰退していくから、首都圏から近いという立地を活かして観光を活かしていくとか。

◇事務局
　総合計画の中では、人口減少という見込みがあるが、それを受けた温室効果ガスの推計まではない。環境に特化した計画として、環境基本計画や地球温暖化対策実行計画があり、１０ページの平塚市を取り巻く状況の分析等を踏まえて、今後、温室効果ガスの削減量の数値的な目標も検討していく予定である。

○委員
　参考資料に野生生物の理解の促進、鳥獣対策の問題等が掲載されているが、要注意外来生物についてどこかに項目を作ってほしい。要注意外来生物の具体例として、アメリカザリガニがあり、全国的にザリガニと言えばアメリカザリガニとなっている。小学校では、わかば環境ＩＳＯやごみ学級を全ての学校が取り組んでいて、紙の節約などの取組を熱心に行っているが、例えば、低学年でアメリカザリガニをクラスで飼育し、処分に困って池や水路に放つなど、生き物を取り扱った時の後始末の意識が低いのではないかと思う。環境市民の問題として、要注意生物、特定外来生物を安易に取り扱ってはいけないことを学校等に宣伝することが必要だと思う。市民の状況を見ても危ないものがあり、例えば、金目川の亀と言えばミシシッピアカミミガメなどの外来種だが、元々は飼っていたものが逃げ出している。アライグマのことは書いてあるが、要注意外来生物、特定外来生物の問題を一般市民の方にも認知していただいた方が良いと思う。次期環境基本計画にはもっと分るように記述してほしい。

◇事務局
　外来生物の問題については、知識がまだ不足していると思う。次期環境基本計画にも外来生物の視点は入ってくることになると思うが、計画に規定されるだけでは意味がなく、施策として展開し、外来生物の問題を周知徹底することが必要である。個別具体的な施策の展開は、頂いた意見を踏まえて、今後検討していきたい。

○委員
　わかば環境ＩＳＯは環境を考える市民を増やすために良い活動だとは思うが、幼稚園、小学校だけではなく保育園でも取組を実施してほしい。最近は保育園に通う子供も多く、昨年度、自分が活動している団体でも２度程保育園に呼ばれて環境教育を行った。年長さんは説明を良く理解して、環境問題に対して敏感に反応していた。保育園は０歳児から子供を預かっているが、子供の滞在時間も長いことから、保育園の取組も必要ではないかと思う。

◇事務局
　保育園児への教育実施も必要であるが、前回の審議会部会でもあったように高校生、大学生、大人等、幅広い世代への環境教育の実施が必要だと思う。今後、小中学校に限定せず幅広い世代に環境問題について親しんでいただけるような施策を展開し、次期環境基本計画への記述についても検討していきたい。

○委員
　環境ファンクラブの会員等を増やすのも大事だが、以前に環境活動を行っていた知人が、全ての人が昨日より今日、少しだけ環境配慮活動を行うことが必要だということ言っており、そのとおりだと思った。「「環境に関するアンケート」の結果によると、市民の７割が、「日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている」と認識し、環境教育・環境学習や情報提供の重要性を感じています。」との記述が１６ページにあり、このことを第４章に反映させることを検討してほしい。新たな施策を行うことは難しいと

思うが、環境の標語コンクール等で一人一人が環境配慮活動を行うことが大事であることをアピールするような施策を行ってほしい。

◇事務局
団体だけではなく、一人一人の環境配慮活動が大事であるという認識である。普及啓発の施策としては、ポスターや作文コンクールを行っている。また、一人一人の活動の支援としては、コツコツプランを行っている。今後はどのような施策を行うことが効果的なのかを検討し、事業を発展させていく予定である。
次期計画には、市民・事業者等による取組を掲載する予定であり、本審議会に先立ち市内の事業者、団体にヒアリングを行った。その中で、一事業者として何を取り組めば良いのか分からなく、環境に関する取組のメニュー表のようなものがあれば良いという意見があった。計画に定めることになるので、細かい事は記載することはできないが、市民、事業者等の意識啓発に繋がるような計画を策定できればと思う。

○会長
その他、特に資料２「新環境基本計画の全体構成と作成方針」について意見はないか。

○委員
平塚市が、例えば、厚木市、伊勢原市等と違うところは海岸があることだと思う。海岸のごみ問題の解消など、平塚独自の視点、切り口で事業化できるものがあればよいのではないのか。

◇事務局
次期環境基本計画には、河川環境や海岸環境に関することを盛り組む予定である。平塚市内には海岸で活動する環境活動団体もある。ヒアリングでは、漁業組合からも意見を頂いており、関係課とも協議して、検討していきたいと思う。

○会長
今後、部会等の機会で次期環境基本計画の詳細を検討していくのか。

◇事務局
今後部会を開催し、第４章及び第４章の施策を具体的に記載した事業計画を検討していただく予定である。次の審議会は９月頃を予定しているが、そのタイミングでは次期環境基本計画の行政からの案がある程度固まっている段階であるので、それよりも前に部会を開催したいと考えている。

○会長
その他に資料２の第１章から３章に関する細かい指摘があれば、意見を述べることはできるのか。

◇事務局
　可能である。

〇会長
　時間になったので議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

４　その他
◇事務局
　今後のスケジュールについて説明。

５　閉　会